

とうかい食育推進だより



東北地方太平洋沖地震に関して

この度の東北地方太平洋沖地震で被災されました皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。現在国は、被災された皆様への支援及び被災地の復旧に向け総力を挙げて取り組んでおります。

農林水産省では、要請があった応急食料品の調達等に全力で取り組んでいるところです。

また、原子力発電所事故を踏まえた農産物等の安全確認については、政府として、消費者の食の安全の確保に万全を期すため、3月21日、関係する都道府県知事に対し、特定の農産物の出荷を控えるよう要請する指示が出されました。

農林水産省では、食料の確保状況等の「緊急・災害情報」を中心とした情報提供を行うべく、東北地方太平洋沖地震に関する情報http://www.narf.go.jp/ji/kabou/ohof/sai/gai/index.html、農畜水産物の安全性確認結果・出荷規制などの情報に関するポータルサイトhttp://www.narf.go.jp/nout/iku/ai/yoi/index.html、地震の被害に関する相談窓口「フリーダイヤル0120-1355-567」、携帯電話に対応した「農林水産省携帯電話用ホームページ」を開設しています。



第1回「全国食育交流フォーラム2011in三重」

3月号に続き、2月23日(水)24日(木)に農事組合法人モクモク手づくりファーム主催の第1回「全国食育交流フォーラム2011in三重」が三重県伊賀市のあやま文化センターで開催されました。その中のパネルディスカッションのパネラーを紹介します。



コーディネーター、食環境ジャーナリスト金丸弘美氏は全国の食から地域再生や食育、食のフォーラムなどをテーマにした各地の新しい取り組みを運動と実践と出版を通じて広く伝えてみます。

パネリスト、直売所JAおちいまばり「さいさいきて屋」職員松木愛氏は、2009年から「さいさいきて屋」に勤務。高校卒業後JAへ入組、2007年広報担当時、子どもが自分で作る「弁当の日」との出会いで、食育の本質を知り、我が家の食卓と子どもたちの育つ環境を変えようと、家庭内のできる「弁当の日」を考案し、JA広報紙に食育記事を掲載されました。松木さんは「さいさいきて屋」の食育担当で、イベント、食育活動の企画・実践を担当されています。

また、澤さんは愛知県西尾市の出身で、西尾市の全ての中学校では、体験学習の中で茶摘みをするそうですが、当時はいやでいやでたまらなかつたが、今になって茶の心得、自分たちの町にそして先生への感謝の念で一杯である、とのことです。

パネリスト、モクモク手づくりファーム、本フォーラム実行委員長小松浩也氏は、モクモク手づくりファームに入社されてから食育担当で、こどもキャンプ、学校団体の受け入れ等を行っていました。現在はモクモク流農村産業研究所主任研究員として、全国の施設運営アドバイザー、体験事業立ち上げなどの複数のプロジェクトに携わってまいります。

パネリスト、CBCアナウンサー澤朋宏氏は、取材の中で東海地区の農家や漁師と接するうちに、食育の重大さを認識することができたとのこと。また、澤さんは愛知県西尾市の出身で、西尾市の全ての中学校では、体験学習の中で茶摘みをするそうですが、当時はいやでいやでたまらなかつたが、今になって茶の心得、自分たちの町にそして先生への感謝の念で一杯である、とのことです。また、17年以上ボーイスカウト活動を行っており、野外活動を通じて、子どもたちに雨の中の飯盒炊飯等、食のありがたさを身をもって体験させており、親御さんから「子どもが積極的に食事の手伝いをするようになった。」との報告を受けたそうです。どのパネラーも体験活動を通じて、食の成り立ち、食の価値を子どもたちに知ってもらっています。今は、種をまき、将来芽を出し、やがて花を咲かせることを確信して、今後の活動を進めていかれるそうです。私も今後の食育推進活動に大いに参考にさせていただきます。 (記事：東海農政局消費生活課)

野菜ソムリエの親子クッキング

2月22日、常滑市保健センターにおいて、同センター主催「すくすく健康生活」第2回「野菜ソムリエの親子クッキング」が開催されました。2歳以上の幼児とそのお母さま25組50名の参加がありました。

まだ就園前の2歳児さんが中心だったので、「食育シールブックください」を全部理解することは難しく、うでしたから、「シールをはろう」を中心に野菜の話をしました。

お子さんはシールが大好きのようで、野菜の名前と形も一致する子も多く、「ひとつめのお野菜、なんだか分かりますか?」「キュウリ!」「じゃあシールの中からキュウリの写真を選んで、枠に貼りましょう」というと、ぺたぺたと嬉しそうに貼っていました。「残りは、おうちへ帰ってお母さんやお兄ちゃんなどと一緒にやってね」とも。

その後、4月から入園でお弁当を持つていくことを想定して、親子で「野菜の3色おにぎりボール」を野



食育シールブックだいすき



野菜の3色おにぎりボール

菜の「もみもみサラダ」「さつまいもの茶巾絞り」をお子さんにも手伝ってもらいながら、順番に作り、最後にパッケージに詰めて、お弁当の完成。皆さんで、楽しく召し上がっていただきました。

ご飯と野菜(こちらでカットなど下準備済み)を混ぜ混ぜしたり、ラップで包んでお団子状にするとか、カットした野菜とドレッシングをフラスナー付きビニール袋に入れてもみもみしたり、つぶしたサツマイモとゴマを混ぜ混ぜして、ラップで茶巾にする、なんてことは小さなお子さんでも喜んでできるし、作る楽しさを味わう絶好のチャンスだったと思います。(お母さまが隣にいるからこそ出来たのではありませんが)

後日、保健センターの担当者が、参加されたお母さまからお話を聞いたところによると、普段は野菜食べないけど「もみもみサラダ」は気に入って今も食べてる、との嬉しい報告がありました。

参加したお子さんはシールが大好きのように、最後に少しお話をさせてもらったのですが、シールブックに興味をもって嬉しそうにかかえて帰っていったのが印象的でした。

(講師&記事：野菜ソムリエ

近藤香織)

レストランごっこで楽しい食育

瑞穂市立瑞穂保育所

3月1日、岐阜県瑞穂市穂積の瑞穂市立穂積保育所で岐阜県岐阜保健所の主催により「幼児食育講座」が開かれました。対象の幼児は、4〜5歳児34人です。最初に瑞穂市健康推進課の村岡さんが東海

農政局消費生活課作成の「食育シールブック『Da Isukiだいき』」を使って、野菜の名前をあてる「やさしいクイズ」を行いました。子どもたちはシール遊びをしながら、野菜の名前を大きな声で答えていました。次に

村岡さんが、どこからきてどんな料理になるのか教わりました。岡田さんが「いただきます」「ごちそうさま」と言えるかな」と呼びかけると、子どもたちは元気よく食事のあいさつをしていました。



食べ物はどこから来るかを説明する岡田さん



シールブックにシールを貼る園児



レストランごっこの可愛いコックさん

岐阜保健所の岡田さんから、野菜やお米、牛肉など子どもたちが毎日食べている食

材が、どこからきてどんな料理になるのか教わりました。岡田さんが「いただきます」「ごちそうさま」と言えるかな」と呼びかけると、子どもたちは元気よく食事のあいさつをしていました。

続いて岐阜保健所の小林さんが、子どもたちを「コックさん」と「お客さん」に見立てて「レストランごっこ」を行いました。ごはんやパンなど主食類、肉や魚などの主菜類、野菜の副菜類、汁もの類など四種類に分けた料理カードを厚紙で作った皿に並べます。新聞紙で作ったコック帽をかぶり、可愛いコックさんに扮した子どもたちは、バランスの良い料理の組合せを工夫していました。穂積保育所の先生は「今日のような食育教材を使って講座を行うと、子どもたちも興味をもって楽しく学ぶことが出来たと思います。」と語っていました。

(記事：岐阜農政事務所消費生活課)

東海地域の食育イベント等情報をお寄せ下さい

「とうかい食育推進だより」への掲載情報を募集しています。掲載ご希望の方は、お近くの岐阜農政事務所、三重農政事務所、東海農政局地域第一〜四課、または東海農政局消費生活課までお問い合わせ下さい。東海農政局消費生活課(食育推進班) 電話052・223・4651